



# 学校だより

令和5年8月31日  
横浜市立茅ヶ崎東小学校  
校長 宮本 仁志  
都筑区茅ヶ崎東2-11-1  
TEL 943-0802・0803

## 良き友を得んと思わば、良き友となれ

校長 宮本 仁志

夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。学校で子どもたちの声を聞いたり、姿を見たりすると、学校は子どもたちが主役なのだ改めて感じさせられます。

令和5年の夏は、猛暑・酷暑の夏でした。7月の水泳学習は、ほぼ予定通りに実施できましたが、夏休み前の6月下旬から7月下旬はとても暑い夏となり、猛暑が訪れました。みなさんは、どのように過ごされましたか。今年は、まだまだ9月も10月も暑い日が続くことも考えられますので、活動は十分に気をつけて行っていきます。

ところで、学校では、体育館裏側に災害時の避難所となった場合に使用できるように、下水道に直結した「はまっこトイレ」工事が続いています。今後は、東門付近は工事車両等の出入りもあり、ご迷惑をおかけしますが、ご協力よろしくお願いたします。

夏休み明けの朝会のときに「困ったり、悩んだりしたときは、一人で抱え込まずにお家の人や友だち、先生たちに相談しよう」という話をしました。何かあったときに相談できる友だちがいることはとても心強いことです。「真の友」を得る「本当の友だち」をつくるということは、逆の面から言えば、自分自身が相手にとっての「真の友」「本当の友だち」になるということだと思えます。「本当の友だち」を見つけることは難しいことですが、自分が相手にとっての「本当の友だち」なるのは、それ以上にとても難しいことだと思えます。では、「真の友」や「本当の友だち」というのは、どういう友だちのことをいうのでしょうか。

仏陀、お釈迦さまは、自分の教えを述べた「因果経（いんがきょう）」というお経の中で「本当の友だち」とはどういう人間であるかについて書いています。それによると「朋友に三つの要素あり。一には、過ちあるを見ればすなわち相諫（あいかん）す。二には、好（よ）き事あるを見れば深く随喜（ずいき）を生ず。三には、苦危（くき）あるとも相棄てず」とあります。これは、一つ目は、友だちに間違いがあつたら、見て見ぬふりなどをせずにきちんと忠告しあうこと。二つ目は、友だちによいことがあつたら、うらやましがったり、ねたんだりせず、心から一緒に喜び合うこと。三つ目は、友だちが苦しい目にあっているときは、見捨てず、一緒に苦しみ助け合うこと。この三つの要素があつて初めて朋友といえると言っています。2000年以上も前の話ですが、今でも通じることがあると思えます。このような友だちを一人でも多く得ることができれば、とても幸せなことだと思えます。自分の友だちにそうなるように願うのではなく、自分自身がそういう友だちになるよう努力したいものです。